

陳情第69号 折尾駅南側駅前広場の歴史伝承
「線路跡にラインを描く」などについて

1 折尾地区総合整備事業の進め方について

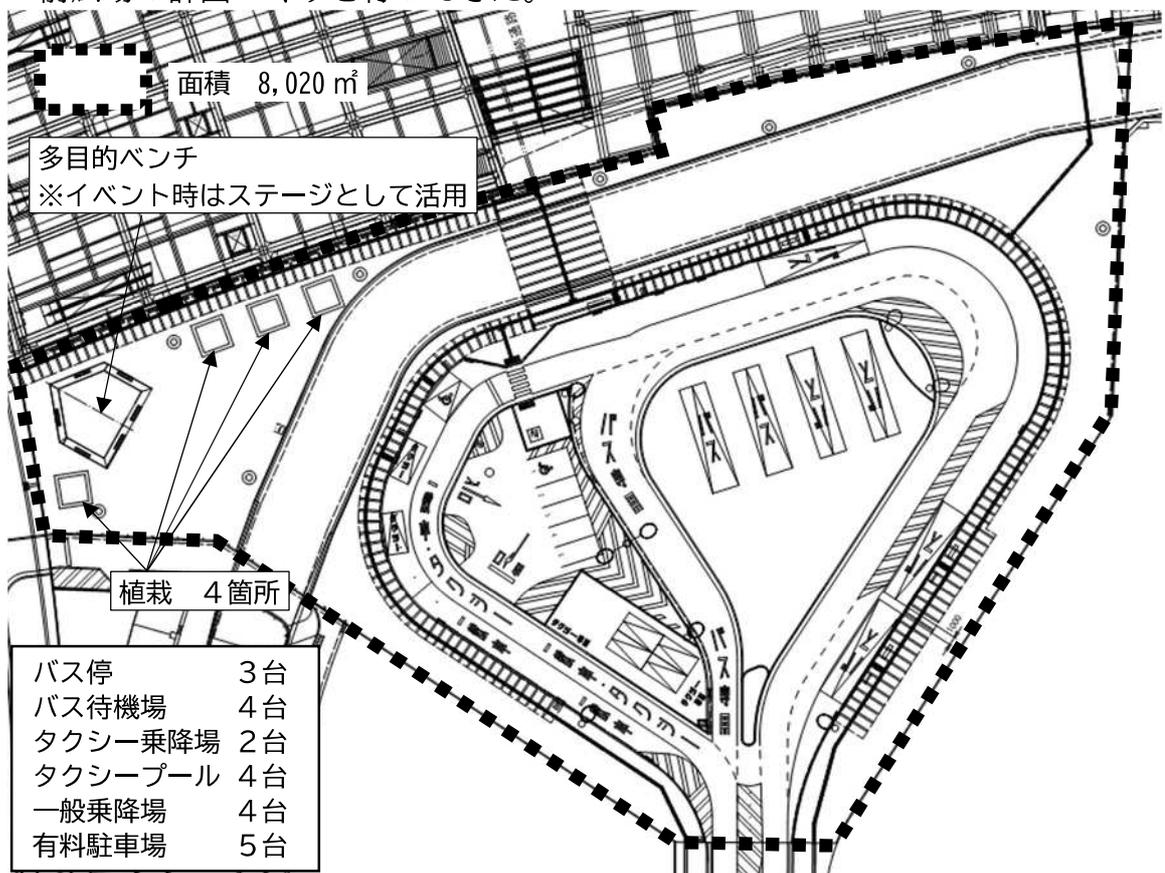
折尾地区総合整備事業は大規模プロジェクトであり、事業の推進にあたっては、地域住民をはじめ多くの市民から理解と共感を得ることが不可欠である。

地域では、折尾地区総合整備事業の着手を契機に、平成18年、地元自治区会、折尾商連、折尾料飲組合、まちづくり団体、教育機関などがひとつになり、北九州市とのパートナーシップによるまちづくりの提案・実践に取り組み、折尾地区の発展に資することを目的として、おりお未来21協議会が設立された。

そのため、設立から現在に至るまで、地域の多くの関係者が所属している同協議会のなかで、事業内容について都度協議の場をもうけ、合意形成を図りながら、丁寧に事業を進めてきた。

2 折尾駅南側駅前広場について

南側駅前広場は、令和8年11月頃の全面供用に向けて、鋭意工事を進めている。整備にあたっては、平成25年以降、おりお未来21協議会の「新折尾駅舎・駅前広場検討会」のなかで、30回にわたり協議を重ねるなど、地域とともに駅前広場の計画づくりを行ってきた。



南側駅前広場レイアウト

3 折尾のまちづくりの歴史に関する情報提供について

折尾地区総合整備事業により、折尾のまちの姿が大きく変わるなか、折尾の歴史や事業の経過等を後世に伝えていくことは重要と考えている。

令和4年5月、折尾のまちづくりの歴史に関する情報提供や、折尾のまちづくり支援を行う多目的交流施設「折尾まちづくり記念館」を、折尾駅に隣接する高架下に整備した。記念館では、旧折尾駅舎模型や折尾昔写真展などの常設展示のほか、郷土史サミットなどの企画を定期的開催している。

また、折尾駅構内では、令和7年11月から、駅舎解体セレモニー「ありがとう折尾駅舎」の企画で誕生した絵画展示「駅なかミュージアム」を設置するなど、駅利用者に対して折尾のまちづくりの歴史に関する情報提供を行っている。



旧折尾駅舎模型（記念館）



折尾昔写真展（記念館）



駅なかミュージアム（駅構内）

4 陳情項目に対する見解

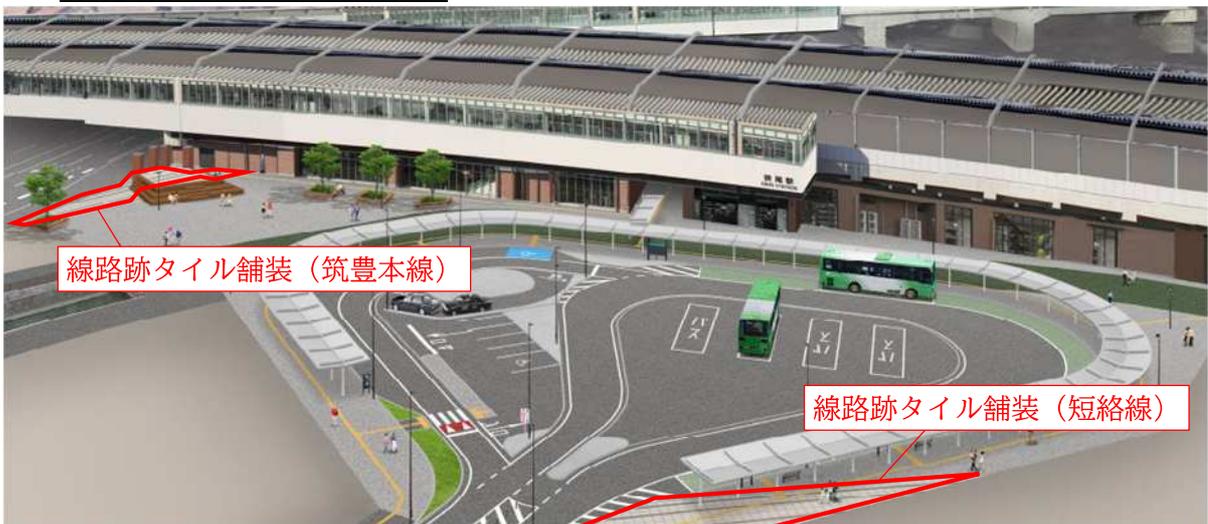
(1) 第1項 筑豊本線跡と短絡線跡に「線路跡のライン」を描くこと

令和6年10月、おりお未来21協議会において、協議用のイメージパースを用いて広場の意匠について協議した。筑豊本線及び短絡線の線路跡を示すタイル舗装を想定していたが、

- ・歩道の一部だけ線路跡を表現しても、後々意味を持たなくなる
- ・歩行者の主動線となるため、雨天時でも高齢者などの歩きやすさに配慮し、周辺歩道と同素材の透水性舗装がよい

などの意見があり、タイル舗装を取りやめた。

同協議会における協議を踏まえ、筑豊本線跡と短絡線跡に「線路跡のライン」を描くことは考えていない。



協議用のイメージパース(R6.10)

(2) 第2項 植栽予定場所に縮小版の折尾駅舎のオブジェを設置すること

第3項 ステージ付近に記念写真や折尾の歴史、折尾地区総合整備事業の経過などを記載したものを設置すること

令和7年春に、陳情者から縮小版の折尾駅舎のオブジェを折尾駅構内に展示したい旨の相談を受け、北九州市は、陳情者からオブジェを借用のうえ、九州旅客鉄道(株)に設置申請を行うことで、令和7年7月からオブジェの駅構内展示を支援している。記念館においても、旧折尾駅舎模型を展示し、駅の歴史に関する情報提供を行っている。

また、駅構内に設置している「駅なかミュージアム」の展示台には、「ありがとう折尾駅舎」のイベントの様子を写真で掲載しており、旧折尾駅舎が地域に親しまれていたことを伝えている。

屋外に第2項及び第3項のようなものを設置すると、風雨や紫外線などによる破損のリスクが高まるため、現状のように、屋内の既存施設を活用して情報提供を図ってまいりたい。



折尾駅舎のオブジェ
(陳情者から借用)



駅なかミュージアム
「ありがとう折尾駅舎」写真掲載の様子

5 まとめ

引き続き、地域住民をはじめ多くの市民から理解と共感を得ながら丁寧に事業を進めていくとともに、折尾のまちづくりの歴史に関する情報提供に取り組んでまいりたい。